



# NEWS ECO



シブヤパイピング工業株式会社

TEL 052-221-6911 FAX052-201-9681

URL <http://www.shibuya-p.com>



今年も残すところあとわずか、なんとなく気忙しい師走の気配を街のあちこちで感じる季節となりました。

気温40℃の猛暑を各地で記録した今年の夏でしたが、10月に入ると季節を違えることなく気温は下がり、空には「いわし雲」が現れ、このまま秋が訪れ、足早に行き過ぎ、昨年同様に寒い冬の到来かと思われました。ところが、11月には入ると一転、毎日のように平均気温を上回る20℃超えの暖かい日が続きました。果たして、この冬はどうなるのでしょうか。

気象庁はペルー沖から太平洋中部までの広い海域で海面水温が高い状態が続く、「エルニーニョ」が約2年ぶりに発生したと見られると発表。エルニーニョの影響で冬の天気傾向は、東日本と西日本の太平洋側では日照時間は少なくなるものの平均気温は高くなり、暖冬になる可能性があるとのこと。

暖冬傾向とはいっても寒い日も予想されます。インフルエンザの流行の季節であり、お酒を飲む機会の多い時期でもあります。体調管理に十分に配慮し、年末年始を過ごしましょう。

また、師走の忙しさから事故の多い時期でもあります。車での移動、現場作業の際には時間と気持ちにゆとりを持って行動し、無事故で新年を迎えましょう。

「来たるべき年が 皆様にとって良い年でありますように」



四季咲きのバラは枝を切り戻すと約50日で花を咲かせます。今年は秋の冷涼な時期に花が長持ちするようにと例年より2週間ほど遅い9月下旬に枝を切り戻しました。予定通り11月10日ごろから花が咲き始め、クリーム色と淡いピンクのグラデーションが愛らしい花となりました。

シブヤの庭・12月

## 【ISO14001 掲示板】

大気中のオゾン層が2060年代には地球全体で1980年の水準まで回復するとの予測が11月5日に発表されました。「モントリオール議定書」によるフロン規制の成果か。 ジュネーブ=共同より

世界気象機関 (WMO) と国連環境計画 (UNEP) は11月5日、一時破壊が進んだ大気中のオゾン層が2060年代には地球全体で1980年の水準まで回復すると予測する報告書を発表した。オゾン層には有害な紫外線をさえぎる効果がある。WMOなどは国際条約報告書によると、成層圏上部のオゾンは両極地方を除き2000年以降、10年ごとに1~3%増加しており、1987年に「オゾン層を破壊する物質に関するモントリオール議定書」が採択され、フロン規制が進んだ効果がこのペースが続けば、北半球の中緯度地域では30年代までに1980年の水準まで完全に回復し、南半球の中緯度地域でも2050年代には回復するとした。

破壊が最も進んだ両極地方でもオゾン量は増加しており、60年代には回復すると予想した。証拠として、南極上空でオゾン層が極端に薄くなって穴が開いたような状態になる「オゾンホール」が2000年を境に縮小していたことが初めて確認されたとしている。

## 【スーパー台風】

今年は多くの台風のが、日本に接近、上陸して大きな被害を各地にもたらしました。地球温暖化の影響で今後はスーパー台風といわれる超大型の台風の上陸が心配されています。スーパー台風とはどのようなものか取り上げてみました。 地球環境問題について | newecologist より

まず始めに、台風とは赤道付近の熱帯で生じる低気圧 (熱帯低気圧) のうち、赤道以北、東経180度より西の北大西洋、南シナ海に存在するものの中で、低気圧内の中心付近の最大風速が、17.2m/sを超えるものことで、**台風 (17.2m/s)、強い台風 (33m/s)、非常に強い台風 (44m/s)、猛烈な台風 (54m/s)** と台風の中心付近の風速によりその脅威度を表しています。

そして、日本では「**風速59m/sを超す台風 (10分平均)**」を**スーパー台風**と定義しています。もしもこのスーパー台風が東京を襲った場合、最大で10mもの浸水が生じ、100近い数の駅が機能しなくなり、数百万人単位の帰宅困難者が発生し、死者も少なからずでるでしょう。

日本で過去歳大規模の伊勢湾台風は直前までスーパー台風の定義に当てはまるものでしたが、上陸直前に規模が小さくなったため、日本はいまだスーパー台風に見回れたことはないということになります。

また海外では2013年にフィリピンを襲った台風30号 (ヨランダ) が記憶に新しいかと思えます。ヨランダがフィリピンを襲った際、フィリピンでは合計7000人近い死者が発生し、被害総額はおよそ850億円にも登りました。発展途上のフィリピンでは台風被害に対する対策が十分ではなく、高潮などへの対応が遅れたことが、被害拡大につながってしまった原因であるとも考えられています。

スーパー台風は毎年0~1個の割合で熱帯付近で発生していますが、勢力を保ったまま日本に上陸することは非常にまれで、その頻度は数千年に一度と言われています。ただしその一度がいつ起こるかは誰にもわかりません。万が一東京を襲った場合被害が甚大になることが予想されます。

最近では「地球温暖化」によって台風の発生が増えていることは一つの懸念材料となってきています。更に、地球温暖化によって海面の水温が上昇することはすなわち台風が勢力を保ったまま日本付近まで来ることを意味します。日本に「スーパー台風」レベルの台風が上陸する可能性もでてくるでしょう。

そしてこのまま地球温暖化が進むと、80年後には海面の温度が5%近く上昇すると言われてしています。もしそうなれば、日本もまたいまだかつて経験したことのないような大きな台風や自然災害に見舞われる可能性がでてきます。

「高潮」とは台風の中心の低気圧帯により海面を持ち上げ移動させることで発生する高波のことを意味しますが、スーパー台風による高潮は防波堤を越えるきぼとなることが予想されます。

私たちは温暖化と異常気象を日常生活の中で感じています。身の回りで出来る温暖化対策に真剣に取り組む時がきています。

